

相撲の部

1. 種 目

- (1) 団体戦
- (2) 個人戦 (全国・四国大会予選, 学年別)

2. 参 加

学校から参加の場合は, 自由参加。地域スポーツ団体から参加の場合は, 県中体連に登録済みで出場が認められた団体とする。

団体戦—学年制限なし。選手3名, 補欠2名とする。

個人戦—全国・四国大会予選個人戦は, 団体戦出場登録者と個人戦のみ出場登録者とする。

学年別個人戦は, 全国・四国大会予選出場登録者及び学年別個人戦登録者全員とする。

3. 競技方法

(1) 団体戦

- ① 出場チームによるリーグ戦を行う。
- ② 全国大会出場 (1チーム) は, 団体1位チームとする。
四国大会出場 (3チーム) は, 団体1位・2位・3位チームとする。

(2) 個人戦

- ① トーナメント戦または参加人数が少ない場合はリーグ戦を行う。
- ② 全国・四国大会予選個人戦
全国大会個人出場者 (3名) は, 個人1位・2位・3位の選手とする。
四国大会個人戦出場者 (8名) は, ベスト8以上の選手とする。
※順位決定戦を行う。
- ③ 学年別個人戦

4. 競技規定

- (1) 時 間 3分を限度とする。

(2) 禁止技

(公財) 日本相撲連盟の『競技会規定及び審判規定』に基づいて行うが, 危険を防止するため, 申し合わせ事項として下記の規定を追加する。

- ① 危険を防止するため, 次の技を「禁じ技」とする。
 - ・反り技 (居反り・撞木反り・掛け反り・たすき反り・外たすき反り・伝え反り)
 - ・河津掛け ・さば折り ・極め出し, 極め倒し (かんぬき)
- ② 「禁じ技」が用いられた場合は, 直ちに競技を中止し, 取り直しとする。
- ③ 「禁じ技」で勝負が決まった場合は, 審判員の協議により「取直し」とする。
- ④ 同一選手が「禁じ技」を二度用いた場合は, 審判員の協議により負けとする。
- ⑤ 危険を防止するため, 次のような状態を、「危険な組手」とする。
 - ・脇に入った相手の首を極めること。(抱え込む)
 - ・後頭部を相手の腹部につけること。(突っ込む) ・鴨の入首
- ⑥ 「危険な組手」となった場合は, 直ちに競技を中止し, 「取直し」とする。
- ⑦ 審判長は, 「危険な組手」と認めたときは, 直ちに右手を挙手し, 主審に競技の中止を指示する。
- ⑧ 主審は, 「危険な組手」と認めて競技を中止した場合は, 審判長の指示を受ける。
- ⑨ 同一選手が「危険な組手」(鴨の入首を除く。)を二度用いた場合は, 審判員の協議により負けとする。

(3) 交代

- ① 交代選手が出場する場合は本部の承認を要し、団体戦に限り前選手の位置を継承する。
- ② 交代した選手は再び出場することはできない。

(4) 立ち合い

- ① 主審の「掛声」によって立ち合わせるものとし、手をつく位置は、「仕切線」の後方とする。
- ② 両手を瞬間的につく「立合い」は、認められない。
- ③ 主審は、選手が「掛声」の前に立ち上がった等不適當な「立合い」が行われたと認めたときは、「待った」をかけ、「立合い」のやり直しを行う。

(5) 異議申し立て

- ① 競技の判定に対する異議申し立ては担当の審判のみに許される。
- ② 一度勝ち名乗りを上げて決定した後は、一切異議申し立ては認めない。

(6) 服装

日本相撲連盟公認のまわし及びアンダーパンツ

※アンダーパンツは、まわしの下に着用するもので、黒色又は紺色のものとする。

(7) その他

団体戦の対戦結果が1－1となった場合は、両チーム負けとなる。

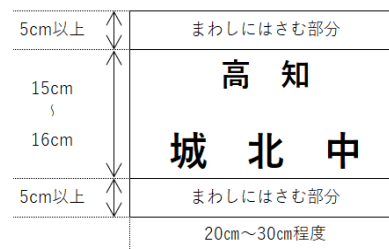
団体順位決定戦で同点の場合、再試合を行い、なお同点の場合は専門部と該当校監督と協議のうえ代表決定戦を行う。代表者は学年を問わない。

5. 注意事項

(1) 校名（学校対抗）を標記する。

- ① 字画の太さは、1 cm位とする。
- ② 輪にしないで、まわしにはさむようにする。
- ③ 必ず県名を入れる。
- ④ 下地は単色の布とすること。

(2) 手・足のつめを端正にする。



地域スポーツ団体【例】

